JCY-1800　仕様

外形図

国際規格	
IMO A861（20）、IEC61996、IEC60945他	
保護カプセル	
記録データ	日付、時刻、船舶位置、船速、船首方位、船橋内音声、レーダ画像、VHF通信音声、キール下水深、船橋アラーム、操舵指令・応答角度、操機指令・応答、防火扉・防水扉の状態、船体開口部の状態、加速度と船体応力、風速・風向　他
記録時間	連続12時間以上のデータ
データ記録周期	1秒以下、（レーダ画像：15秒周期）
データ保持期間	2年以上
環境条件（固定型カプセル）	耐火；1100℃ 1時間、260℃ 10時間、耐水圧；6000m深海で24時間　他
センサ接続入力ポート	
マイク入力	9ポート
VHF音声入力	3ポート
IEC61162-1&-2	32ポート
NSK（オプション）	Synchro/Step/Pulse
レーダー	RGB
アナログ（オプション）	32ポート（最大）
接点信号（オプション）	256ポート（最大）
電源電圧	
AC 100/110/115/120/220/240 V, 50/60Hz	

標準構成品

名　称	型　名	数量
保護カプセル	NDH-316	1
防水中継箱	NQE-3163	1
記録制御機	NDV-1800	1
操作表示器	NCG-169	1
マイクユニット	NVT-161	3
スペアパーツ	7ZXJD0080	1
プレイバックソフトウェア	CYC-315（事故調査官用）	1
プレイバックソフトウェア	CYC-316（ユーザ用）	1

オプション構成品

名　称	型　名	数量
防水マイクユニット	NVT-162	2
防水アジロ外装LANケーブル	7ZCAF0200	30m
NSK　インターフェース	CHM-378	1
16ch接点信号入力器	NCT-63	1
64ch接点信号入力器	NCT-72	1
8chアナログ/デジタル変換回路	CEF-60	1

※外観・仕様などは、予告なく変更することがあります。

⚠ 注意　正しく安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ず「取扱説明書」をよくお読みください。

JRC 日本無線株式會社
JRCウェブサイト　http://www.jrc.co.jp/
本社事務所　〒160-8328 東京都新宿区西新宿六丁目10番1号　日土地西新宿ビル
海上機器営業部　（03）3348-2351（ダイヤルイン）

北海道支社　〒060-0003 札幌市中央区北3条西7-1　北海道水産ビル　☎（011）261−8321（直通）
東 北 支 社　〒980-0803 仙台市青葉区国分町3-9-8　田山ビル　☎（022）225−6833（直通）
中 部 支 社　〒460-0008 名古屋市中区栄2-6-1　白川ビル別館　☎（052）203−1225（業務課）
関 西 支 社　〒530-0004 大阪市北区堂島浜1-4-28　☎（06）6344−1633（直通）
九 州 支 社　〒812-0025 福岡市博多区店屋町1-31　ダヴィンチ博多　☎（092）262−2141（直通）
三鷹製作所　〒181-8510 東京都三鷹市下連雀5-1-1　☎（0422）45−9111（案内）
稚内　釧路　帯広　函館　青森　八戸　秋田　盛岡　福島　新潟　長野　さいたま
静岡　焼津　金沢　福井　岐阜　神戸　松江　広島　山口　高松　高知
佐賀　大分　長崎　熊本　宮崎　鹿児島　那覇　シアトル　ニューヨーク　アムステルダム
アテネ　台北　マニラ　ハノイ　シンガポール　ジャカルタ

34JM

ISO9001, ISO14001 認証取得
2007年2月作成

CAT.No.A-220（No.618-1-3）D

航海データ記録装置
JCY-1800

- JRC独自の高信頼設計
- シンプル配線・優れた装備性
- PCによる外部記録機能（180Gバイト：60日間）
- 操作が容易なプレイバックソフトウェア
- ワールドワイドサポート

JCY-1800 航海データ記録装置

JCY-1800はIMO（国際海事機構）、SOLAS（海上人命安全条約）で定められたVDR（航海データ記録装置）です。その機能は船のブラックボックスとも呼ばれ、衝突・沈没などの海難事故発生の際に本船から回収して、速度・船橋内の会話・VHF通信音声などの航海情報を読み出して、事故原因の究明に活用されます。VDRはSOLASの規定により国際航海に従事する3,000トン以上の新造貨物船と客船への搭載が義務付けられています。

◎搭載要件
- 2002年7月1日以降に建造される国際航海に従事する旅客船
- 2002年7月1日以降に建造される国際航海に従事する3,000t以上の旅客船、Ro-ro船以外の船舶

JCY-1800 高信頼設計

JCY-1800はJRCの最新技術を結集して設計された高信頼装置です。IMO A861(20)、IEC61996、IEC60945に合致。

独自技術

JRCのVDRは今まで培った海上機器装置の豊富な経験と独自の技術を活かした高信頼装置です。ハードディスク等の可動部分を持たない為に大幅に信頼性が向上しました。また、パーソナル・コンピュータ等の一般品に頼らない独自の設計・製造により保守部品の長期対応も可能になりました。

組込用リアルタイムOSの採用

信頼性・保守性向上および広い拡張性のために工業用機器組込リアルタイム・オペレーション・システム（OS）を採用しました。工業用を採用することで安定作動が実現できました。

ワールドワイドサポート

JRCのVDR/S-VDR認定工事業者ネットワークにより、ワールドワイドな装備工事及び年次検査が可能です。

保護カプセル

保護カプセルは固定型と浮遊型を選択できます。保護カプセルはVDRで世界トップシェアを誇る「L3」製を採用しました。「L3」製保護カプセルは小型、軽量で装備場所を選びません。

JCY-1800 各種機能

JCY-1800はカプセルに12時間以上のデータを記録し、プレイバックソウトウェアにより記録データが再生可能です。（IMO SN Circ.246規則対応）

優れた装備性

様々な船舶に容易に装備できるようVDRに必要な全てのインターフェースを記録制御機にまとめ小型・軽量を実現しました。また、拡張性も考慮しレーダ2画像切替記録にも対応しています。
さらに独立した小型操作表示器は離れたところで容易に状況確認やアラーム表示が確認できます。

プレイバックソフトウェア

JCY-1800には記録データをパーソナル・コンピュータで再生できるプレイバックソフトウェアを標準装備しました。記録したデータを数値やグラフィックで参照することが可能です。
さらに、プレイバックソフトウェアには記録データのCSVファイル変換ソフトウェアが標準で組み込まれております。この機能を利用することで記録データを容易に陸上へ電子メール等で送信したり、汎用表計算ソフトで集計やグラフ化が出来、運航データの解析に有効です。

外部記録機能

VDRに標準装備されているネットワーク機能を利用することで、お客様支給のパーソナルコンピュータ（PC）とHUBにより最大4台のPCで記録データを共有可能です。また、このネットワーク機能により、このPCに12時間以上のデータが記録可能です。（24時間の記録データは約3Gバイト。）

遠隔診断サーバー

VDRに標準装備された遠隔診断サーバーは、VDRに接続したJRC製の航海機器／無線機器の現在の状態をIPルーティング技術によりJRCのサービス部門で監視する装置です。この機能を活用することで搭載機器の最新状態が監視可能になります。

◎接続機器